

科目名称	☆日本文化史	科目分類	401-310-11
担当教員	遠山 元浩	授業区分	講義
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本講義は、日本の宗教文化の特徴や歴史について考察するものである。 講義初頭に日本の宗教文化の特徴や歴史について概説。その後、神仏習合と本地垂迹説に関わる各種宗教絵画や高僧伝絵巻（国宝『一遍聖絵』など）を使用し、日本に於ける仏教と神道および既存信仰との密接な繋がりを紐解き、その理解を深めていく。		
到達目標	日本の信仰形態の変遷を時代を追って再検証し、その時代ごとの特徴を把握。時代ごとの解説に取り上げた信仰形態や対象物をより深く理解するため、その地域の空間的要素の把握から、信仰対象の偶像的表現方法として使用された絵画や彫刻などを、その分野や形態、特徴的技法などをふまえて、本質をより深く理解する。その上で、日本人の生活の中に溶け込んでいる宗教とは何なのかを再検証しつつ、自らまとめ上げる事を、到達目標とする。		
各回の授業内容と課題学習			
第1回 授業の進め方・内容の概論			
第2回 日本の宗教文化 祈りの先にあるもの（神様仏様）			
第3回 日本の宗教文化 祭事・儀礼			
第4回 日本の宗教文化 自然崇拝			
第5回 日本の宗教文化 縄文から続く信仰表現			
第6回 日本の宗教文化 祖霊信仰と天照大神			
第7回 日本の宗教文化 仏教公伝前後			
第8回 日本の宗教文化 神仏習合と本地垂迹			
第9回 日本の宗教文化 偶像崇拝			
第10回 日本の宗教文化 古代から中世の信仰			
第11回 日本の宗教文化 密教と顕教における宗教美術			
第12回 日本の宗教文化 浄土信仰			
第13回 日本の宗教文化 末法思想と阿弥陀			
第14回 日本の宗教文化 善光寺・二河白道と十一不二願			
第15回 日本の宗教文化 観音信仰と巡礼 (研究発表と課題の確認)			
第16回 日本の宗教文化 垂迹絵画から読み解く			
第17回 日本の宗教文化 浄土絵画と変相図			
第18回 日本の宗教文化 熊野信仰 本宮の浄土観			
第19回 日本の宗教文化 熊野信仰 新宮の信仰			
第20回 日本の宗教文化 熊野信仰 那智と補陀落渡海信仰			
第21回 日本の宗教文化 高僧伝絵巻や尊像等から読み解く			
第22回 日本の宗教文化 『一遍聖絵』から読み解く描かれた自然崇拝			
第23回 日本の宗教文化 『一遍聖絵』から読み解く人物描写の意図			
第24回 日本の宗教文化 『一遍聖絵』から読み解く行事と名所			
第25回 日本の宗教文化 祖師信仰から読み解く			
第26回 日本の宗教文化 寺院と庶民のつながり			
第27回 日本の宗教文化 庶民信仰の中にある年中行事			
第28回 日本の宗教文化 民間信仰と既存宗教の関わり			
第29回 日本の宗教文化 近現代の信仰形態			
第30回 成果報告と展望			
テキスト・教材	適宜参考資料等を配付する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価の基準と方法	授業の平常点・各講義の課題の達成度（30%）、課題レポート（70%）で総合的に評価する。		

授業開始前学習	先行研究や用語の意味などを事前に確認し、授業に臨んで欲しい。				
授業内課題のフィードバックの方法	学びの節目事に、己が得たポイントを元に討論 疑問点などを軸に、さらなる研究を掘り下げる 中間と期末に討論を重ねた成果を発表、今後の研究進化につなげる				
準備学習（予習）	授業で使用する予定がある原典史料の基礎事項について事前に確認しておく事。				
準備学習（復習）	授業中に用いた歴史史料や絵画史料、および特定の地域における信仰形態や社寺仏閣などは、その作品の詳細情報を個別に再確認する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		
関連科目					
その他					

科目名称	☆日本文化論	科目分類	401-310-11
担当教員	山本 元隆	授業区分	講義
研究室	10-506	オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 14:40~16:10 後期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 14:40~16:10
授業のテーマ・内容	本講義では芸術・芸道から文学・年中行事など広範にわたる日本の文化について、特に信仰の側面から論考する。信仰の対象となる仏・菩薩は、本来、インド文化に由来するものだが、仏教の伝播とともに中国文化など異文化と接し、互いに融合しながら日本に定着した。前期では、インド・中国・日本における仏菩薩の由来や信仰の諸相について、無著道忠『禅林象器箋』第5類「霊像門」等の解説を交えながら俯瞰し、後期では、仏・菩薩への信仰が日本の民衆文化にどのように浸透していったのか、『今昔物語集』などの仏教説話を中心に検討をくわえる。本講義を通して、日本文化を研究する専門的知識の習得と方法論の確立をはかる。		
到達目標	日本文化における仏・菩薩への信仰の変遷、文化的変容について包括的に捉えるとともに、人の精神的営みである信仰について文献学の方法論に沿って分析・考察し、修士論文の素材として利用できる力を身につける。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 「日本文化と信仰」概説 2. 仏教における釈迦信仰（歴史・思想） 3. 日本文化における釈迦信仰（芸術・年中行事） 4. 仏教における観音信仰（歴史・思想） 5. 日本文化における観音信仰（芸術・年中行事） 6. 仏教における文殊信仰（歴史・思想） 7. 日本文化における文殊信仰（芸術・年中行事） 8. 仏教における弥勒信仰（歴史・思想） 9. 日本文化における弥勒信仰（芸術・年中行事） 10. 仏教における地藏信仰（歴史・思想） 11. 日本文化における地藏信仰（芸術・年中行事） 12. 仏教における薬師信仰（歴史・思想） 13. 日本文化における薬師信仰（芸術・年中行事） 14. 仏教における阿弥陀信仰（歴史・思想） 15. 日本文化における阿弥陀信仰（芸術・年中行事） 16. 釈迦如来に関する仏教説話 1『今昔物語集』巻 11-1 17. 釈迦如来に関する仏教説話 2『今昔物語集』巻 12-6 18. 観音菩薩に関する仏教説話 1『今昔物語集』巻 16-4 19. 観音菩薩に関する仏教説話 2『今昔物語集』巻 16-7 20. 文殊菩薩に関する仏教説話 1『今昔物語集』巻 11-7 21. 文殊菩薩に関する仏教説話 2『今昔物語集』巻 17-38 22. 弥勒菩薩に関する仏教説話 1『今昔物語集』巻 11-13 23. 弥勒菩薩に関する仏教説話 2『今昔物語集』巻 11-30 24. 地藏菩薩に関する仏教説話 1『今昔物語集』巻 17-17 25. 地藏菩薩に関する仏教説話 2『今昔物語集』巻 17-23 26. 薬師如来に関する仏教説話 1『今昔物語集』巻 11-26 27. 薬師如来に関する仏教説話 2『今昔物語集』巻 12-19 28. 阿弥陀如来に関する仏教説話 1『今昔物語集』巻 15-35 29. 阿弥陀如来に関する仏教説話 2『今昔物語集』巻 19-14 30. 信仰から見る日本文化の特質 			
テキスト・教材	適宜、プリントを配布する。		
参考書	『仏教文化事典』（佼成出版社、1989年）など、適宜、授業時に紹介する。		
評価の基準と方法	平常点とレポートで評価を行う。平常点（発表内容・質疑応答等を総合的に評価）50点・レポート50点。		
授業開始前学習	上述のテーマおよび文献資料と関連する先行研究を確認しておくこと。また、各回の授業においては、授業前にテーマに関する専門用語を調べておくことが望ましい。		

授業内課題のフィードバックの方法	毎回、疑問点や課題を話し合い、教員からもコメントして問題意識を共有する。				
準備学習（予習）	次回の授業範囲を毎回予告するので、参照資料について現代語訳とみずからの解釈を施す。				
準備学習（復習）	授業のポイントや疑問点等を整理する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		
関連科目					
その他					

科目名称	仏教文化特殊講義	科目分類	401-330-11
担当教員	安藤 嘉則	授業区分	講義
研究室	10-505	オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 火曜日 09:00～12:00
授業のテーマ・内容	日本仏教は奈良時代の国家仏教の時代から平安の最澄・空海によって壮大な仏教哲学が展開され、特に鎌倉期には叡山で参学した法然・親鸞・栄西・道元・日蓮によって新たな宗派が開かれている。こうしたさまざまな日本の仏教宗派の思想を総合的に理解するための方法として、禅と浄土と法華と密教の4つの思想を学修する。本講義では、これらの4つの思想の源となった仏教経典・論書などの代表的な典籍を講読するが、それぞれ重要なエッセンスを示すテキストに限定しつつ、仏典を幅広く講読することによって日本仏教を総合的に理解することをめざす。		
到達目標	日本仏教を支える般若思想（空思想）・法華思想・浄土思想・密教思想を理解し、それぞれの基本思想が日本の各宗派にどのように受容されているのかを理解し説明できるようになる。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1, 仏典の成立 2, 仏典の種類と教義的相違 3, 原始仏教聖典 4, 大乘仏教経典の概要 5, 法華経 6, 華嚴経 7, 浄土経典 8, 般若経典 9, 密教経典 10, 陀羅尼 11, 中国の仏典 1 摩訶止観 12, 中国の仏典 2 天台小止観 13, 中国の仏典 3 大智度論 14, 中国の仏典 4 臨済録 15, 中国の仏典 5 その他 16, 日本の仏典 1 往生要集 1 地獄観 17, 日本の仏典 2 往生要集 2 浄土観 18, 日本の仏典 3 往生要集 3 阿弥陀の救済 19, 日本の仏典 4 三教指帰 20, 日本の仏典 5 歎異抄 21, 日本の禅語録 語録とはなにか 22, 日本の禅語録 1 正法眼蔵 1 自己の探求 23, 日本の禅語録 2 正法眼蔵 2 存在と時間 24, 日本の禅語録 3 正法眼蔵 3 平常への回帰 25, 日本の禅語録 4 正法眼蔵 4 とうわれない心 26, 日本の禅語録 5 普勸坐禅儀 27, 日本の禅語録 6 永平広録 1 上堂語 28, 日本の禅語録 7 永平広録 2 小参 29, 日本の禅語録 8 永平広録 3 詩文 30, まとめ 			
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	『仏教文化事典』（佼成出版）		
評価の基準と方法	平常点50%、レポート50%		
授業開始前学習	三枝 充恵 j『インド仏教思想史』（講談社学術文庫）など、仏教の基本思想を概説した本を読んでおくこと。		

授業内課題のフィードバックの方法	第 15 回の授業後に課せられる前期レポートについて、第 16 回目の授業のときに講評する。				
準備学習（予習）	予め配布されている資料をよく読んでおくこと。				
準備学習（復習）	配付資料を再読し授業内容を確認するとともに、理解できなかった点、問題点を整理しておくこと。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目	仏教文化演習				
その他					

☆日本文化論演習／禅文化演習

科目名称	☆日本文化論演習／禅文化演習	科目分類	401-320-21
担当教員	佐々木 俊道	授業区分	演習
研究室	10-504	オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	本講座は、各自の卒業論文の延長および新たな研究テーマに沿った、研究指導および修士論文作成指導を行う。		
到達目標	日本文化、特に宗教文化および仏教文化において、自らの専門領域に関する論文・文献・史料を読み解き、さらに評価・批判し創造的な学術的知見を発信することができる能力を身に付けることを目標とする。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の内容発表 2. 卒業論文の内容についての質疑応答 3. 問題点の整理 4. 修士論文の完成までの指針の作成 5. 修士論文の為の参考図書及び参考論文の提示 6. 参考資料・基本的文献・基礎資料の提示 7. 基礎資料の読解・基礎 8. 基礎資料の読解・応用 9. 基礎資料の読解・発展 10. 新たな問題点の整理 <ol style="list-style-type: none"> 1 1. 問題の所在を提示 1 2. 目次の整理 1 3. 内容の研究発表 1 4. 質疑応答 1 5. 関連する学会について 1 6. 学会活動をするための準備 1 7. 関連する学会誌の紹介 1 8. 資料検索の方法 1 9. 古文書の取り扱い方 2 0. 古文書の撮影について <ol style="list-style-type: none"> 2 1. 寺院資料の種類について 2 2. 博物館展示の方法と実践 2 3. 古文書読解の方法と技術 2 4. 禅の研究史・インド 2 5. 禅の研究史・中国 2 6. 日本の禅の研究史・中世 2 7. 日本の禅の研究史・近世 2 8. 日本の禅の研究史・明治期以降 2 9. 国際的な禅の展開・ヨーロッパと北米 3 0. 禅の課題と未来展望 			
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配付。		
参考書	『日本文化研究』（駒沢女子大学日本文化研究所）、『仏教文化研究』（駒沢女子大学仏教文化研究会）。		
評価の基準と方法	演習時の研究発表におけるプレゼンテーション（50点）。演習時の研究発表で作成した資料・レジユメを文章化した論文（50点）。		
授業開始前学習	卒業論文等をもう一度読み直し、論文として適正な用語を使用しているか確認し、教養のある文章とはどのようなものか一考しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、研究指導を行い、課題を見つけ、克服する為の道筋を提供する。特に13回目の研究発表、14回目の質疑応答によって、より学術的な水準の高い研究論文にしていく。発表資料に関しては、修正を加え返却する。		

準備学習（予習）	事前に与えられた内容について、仏教用語を辞書等で調べておくこと。				
準備学習（復習）	参考文献及び関係論文を探し出し、熟読し、問題点を整理すること。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	◎	○
関連科目					
その他	院生ならば当たり前であるが課題に真摯に向き合って、積極的に授業に取り組んで頂きたい。				

科目名称	日本文化史演習	科目分類	401-320-21
担当教員	安藤 嘉則・皆川 義孝	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本演習は日本文化について、仏教・神道などの宗教文化をはじめとするさまざまな事柄について、関連資料を読み解きながら日本文化史に対する深い知識を身につけるとともに、各自の研究テーマに沿った、研究指導および修士論文作成の指導を行う。		
到達目標	日本文化、特に宗教文化および仏教文化において、自らの専門領域に関する論文・文献・史料を読み解き、さらに評価・批判し創造的な学術的知見を発信することができる能力を身に付けることを目標とする。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の内容発表 2. 卒業論文の内容についての質疑応答 3. 修士論文の問題設定と完成までの指導 4. 修士論文のための資料と参考文献の検索・関連学会の紹介 5. 修士論文のテーマと仮目次の作成 6. 基礎資料の読解と分析① 7. 基礎資料の読解と分析② 8. 基礎資料の読解と分析③ 9. 基礎資料の読解と分析④ 10. 個人研究の発表 11. 基礎資料の読解と分析⑤ 12. 基礎資料の読解と分析⑥ 13. 基礎資料の読解と分析⑦ 14. 基礎資料の読解と分析⑧ 15. 基礎資料から考える日本文化① 16. 個人研究の発表 17. 修士論文のテーマと目次の検討 18. 基礎資料の読解と分析⑨ 19. 基礎資料の読解と分析⑩ 20. 基礎資料の読解と分析⑪ 21. 基礎資料の読解と分析⑫ 22. 個人研究の発表 23. 基礎資料の読解と分析⑬ 24. 基礎資料の読解と分析⑭ 25. 基礎資料の読解と分析⑮ 26. 基礎資料の読解と分析⑯ 27. 基礎資料の読解から考える日本文化 28. 個人研究の発表 29. 個人研究の課題点の整理 30. 研究成果の振り返り 			
テキスト・教材	古文書、古記録などの資料を読解していくが、テキストについては履修学生の研究テーマに応じて教員が決定する。		
参考書	適宜、指導の中で指示していく。		
評価の基準と方法	資料輪読の読解力 20%、個人研究の発表内容 30%、レポート 50%の合計 100%で総合的に評価する。		
授業開始前学習	修士論文で研究したいテーマ、目次について考え、関連文献のリストを作成しておく。		
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、研究指導を行い、課題を見つけ、克服する為の道筋を提供する。特に修士論文で取り上げるテーマに関連する資料読解（16回）、それを踏まえた研究発表4回によって、より学術的に水準の高い修士論文にしていく。発表時のレジュメ、		

	及び提出したレポートについては、適宜、コメントを加えてフィードバックする。				
準備学習（予習）	授業で資料する資料読解及び個人研究のレジュメを作成し、課題点を明確にしておく。				
準備学習（復習）	授業で学習した内容を再確認し、理解できていない事項について、不足部分を補っておく。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当			○	◎	○
関連科目	日本文化論、日本文化史				
その他					

科目名称	古典文学特殊講義	科目分類	401-330-11
担当教員	三田 誠司	授業区分	講義
研究室	10-611	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10
授業のテーマ・内容	『万葉集』巻第一を講読する。諸注釈を参照し、キーワードについては索引で用例を調査するなど、専門的な研究方法によって読みすすめる、『万葉集』研究の基礎を習得し、和歌文学について考察する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・『万葉集』巻第一に含まれる作品について、先行研究を適切に参照しつつ、説明することができる。 ・古典文学全般についての知識を深め、進んで文学研究を実践することができる。 		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 『万葉集』概説 『万葉集』巻第一 一番歌前半 『万葉集』巻第一 一番歌後半 『万葉集』巻第一 二番歌前半 『万葉集』巻第一 二番歌後半 『万葉集』巻第一 三番歌前半 『万葉集』巻第一 三番歌後半 『万葉集』巻第一 四番歌 『万葉集』巻第一 五番歌冒頭部 『万葉集』巻第一 五番歌中間部 『万葉集』巻第一 五番歌末尾部 『万葉集』巻第一 六番歌 『万葉集』巻第一 七番歌 『万葉集』巻第一 八番歌 『万葉集』巻第一 八番歌 左注 『万葉集』巻第一 九番歌 『万葉集』巻第一 十番歌 『万葉集』巻第一 十一番歌 『万葉集』巻第一 十二番歌 『万葉集』巻第一 十三番歌前半 『万葉集』巻第一 十三番歌後半 『万葉集』巻第一 十四番歌 『万葉集』巻第一 十五番歌 『万葉集』巻第一 十六番歌前半 『万葉集』巻第一 十六番歌後半 『万葉集』巻第一 十七番歌前半 『万葉集』巻第一 十七番歌後半 『万葉集』巻第一 十八番歌 『万葉集』巻第一 十九番歌 『万葉集』巻第一の配列 			
テキスト・教材	プリントを配布する。		
参考書	『万葉集 1』（新編日本古典文学全集）他（授業時に指示する）		
評価の基準と方法	レポート（100％）によって判断する。 出席状況が思わしくない場合には、単位取得を認めない。		
授業開始前学習	『万葉集』に関する入門書を一読しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に疑問点や感想について提出させ、次回以降に回答する。		

準備学習（予習）	授業の範囲に関して指定された参考文献を一読し、現代語訳を参照しておく。				
準備学習（復習）	授業の内容と感想を文章にまとめて提出する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目					
その他					

科目名称	日本文化史特殊講義 A	科目分類	401-320-11
担当教員	今野 慶信	授業区分	講義
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	現代につながる「中世文化」をテーマに、鎌倉時代に成立した史料を講読・解説しながら、中世文化を考察していく。具体的には、鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』、説話集『沙石集』、文芸作品『平家物語』『曾我物語』を通して、中世文化を見ていく。		
到達目標	中世文化に関する知識と研究方法を修得し、日本文化の歴史的背景を理解して、自らの興味・関心から専門的研究ができる能力を身につける。		
各回の授業内容と課題学習			
1 ガイダンス 授業内容の確認 2 『吾妻鏡』解題 3 中世武士 熊谷直実出家の周辺 4 『吾妻鏡』に見る冠婚葬祭①（生育儀礼） 5 『吾妻鏡』に見る冠婚葬祭②（婚姻） 6 『吾妻鏡』に見る冠婚葬祭③（葬送儀礼） 7 『吾妻鏡』に見る冠婚葬祭④（先祖崇拜） 8 『吾妻鏡』に見る年中行事①（春の行事） 9 『吾妻鏡』に見る年中行事②（夏の行事） 10 『吾妻鏡』に見る年中行事③（秋の行事） 11 『吾妻鏡』に見る年中行事④（冬の行事） 12 『沙石集』解題 13 中世文化史研究史① 14 『沙石集』に見る中世社会① 15 『沙石集』に見る中世社会② 課題レポートの提出 16 レポート講評 17 中世文化史研究史②（芸能史） 18 『吾妻鏡』に見る様々な人々（武士） 19 『吾妻鏡』に見る様々な人々（農民・漁民） 20 『吾妻鏡』に見る様々な人々（工人） 21 『吾妻鏡』に見る様々な人々（芸能の民） 22 『吾妻鏡』に見る様々な人々（宗教者） 23 『平家物語』解題 24 『平家物語』と寺院社会 25 『平家物語』を伝えた人々 26 『曾我物語』解題 27 『曾我物語』と東国社会 28 『曾我物語』と女性たち 29 総括 課題レポート提出 30 レポート講評			
テキスト・教材	プリントを配布する。		
参考書	授業時に紹介する。		
評価の基準と方法	授業内のレポート等で評価する。		
授業開始前学習	学部時代に学んだ文化史関連授業及び自らの卒業論文等を整理し、中世文化史について復習しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	実施の1週間後、授業において講評を行う。		

準備学習（予習）	事前に配布された史料について、自分なりに講読し、用語等について調べておく。				
準備学習（復習）	授業を振り返り、学んだことや疑問点等を整理しておく。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目					
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。				

科目名称	比較文化特殊講義 I	科目分類	401-320-11		
担当教員	山本 元隆	授業区分	講義		
研究室	10-506	オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 14:40~16:10 後期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 14:40~16:10		
授業のテーマ・内容	インド・中国・日本の仏教文化および思想を比較して、日本仏教の文化的特色について考察する。日本の仏教文化を異文化と比較することで、その特色がより重層的に理解できるであろう。本講義では禅宗が特に重んじた「仏祖三経」の『遺教経』原典とその注釈書（『仏祖三経指南』など）を中心に講読し、あわせて特定の語句に対する中国や日本の禅籍（禅語録）の解釈とも比較しながら検討する。本講義を通して、日本の文化および思想を比較研究する専門的知識の習得と方法論の確立をはかる。				
到達目標	インド・中国・日本の仏教文化それぞれの類似点と相違点を比較検討するうえで必要な専門的知識を修得することができる。				
各回の授業内容と課題学習					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 授業内容の確認 2. 「比較文化論」概説 3. 『遺教経』および『仏祖三経指南』解題 4. 『遺教経』「浄戒（戒律観）」について 5. 『遺教経』「善法（修道観）」について 6. 『遺教経』「五欲（人間観）」について 7. 『遺教経』「小欲」について 8. 『遺教経』「知足」について 9. 『遺教経』「遠離」について 10. 『遺教経』「精進」について 11. 『遺教経』「不忘念」について 12. 『遺教経』「禅定」について 13. 『遺教経』「智慧」について 14. 『遺教経』「不戯論」について 15. 『遺教経』解釈の比較から見える日本の仏教文化 					
テキスト・教材	適宜、プリントを配布する。				
参考書	『比較思想事典』（東京出版、2000年）など、適宜、授業時に紹介する。				
評価の基準と方法	平常点とレポートで評価を行う。平常点（発表内容・質疑応答等を総合的に評価）50点・レポート50点。				
授業開始前学習	上述のテーマおよび文献資料と関連する先行研究を確認しておくこと。また、各回の授業においては、授業前にテーマに関する専門用語を調べておくことが望ましい。				
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、疑問点や課題を話し合い、教員からもコメントして問題意識を共有する。				
準備学習（予習）	次回の授業範囲を毎回予告するので、参照資料について現代語訳とみずからの解釈を施す。				
準備学習（復習）	授業のポイントと疑問点等を整理する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目					
その他					

科目名称	比較文化特殊講義Ⅱ	科目分類	401-320-11		
担当教員	山本 元隆	授業区分	講義		
研究室	10-506	オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10		
授業のテーマ・内容	インド・中国・日本の仏教文化および思想を比較して、日本仏教の文化的特色について考察する。日本の仏教文化を異文化と比較することで、その特色がより重層的に理解できるであろう。本講義では禅宗が特に重んじた「仏祖三経」の『四十二章経』原典とその注釈書（『仏祖三経指南』など）を中心に講読し、あわせて特定の語句に対する中国や日本の禅籍（禅語録）の解釈とも比較しながら検討する。本講義を通して、日本の文化および思想を比較研究する専門的知識の習得と方法論の確立をはかる。				
到達目標	インド・中国・日本の仏教文化それぞれの類似点と相違点を比較検討するうえで必要な専門的知識を修得することができる。				
各回の授業内容と課題学習					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 授業内容の確認 「比較文化論」概説 2. 『四十二章経』および『仏祖三経指南』解題 3. 『四十二章経』「修行の証果」（第1章） 4. 『四十二章経』「善悪の基準」（第4章） 5. 『四十二章経』「善悪の因果」（第7章） 6. 『四十二章経』「喜捨の功德」（第10章） 7. 『四十二章経』「忍辱の功德」（第15章） 8. 『四十二章経』「仮真の観察」（第19章） 9. 『四十二章経』「本空の観察」（第20章） 10. 『四十二章経』「五欲の過失」（第22章） 11. 『四十二章経』「無執着の徳」（第27章） 12. 『四十二章経』「中道の実践」（第34章） 13. 『四十二章経』「身命の無常」（第38章） 14. 『四十二章経』「行道と発心」（第40章） 15. 『四十二章経』解釈の比較から見える日本の仏教文化 					
テキスト・教材	適宜、プリントを配布する。				
参考書	『比較思想事典』（東京出版、2000年）など、適宜、授業時に紹介する。				
評価の基準と方法	平常点とレポートで評価を行う。平常点（発表内容・質疑応答等を総合的に評価）50点・レポート50点。				
授業開始前学習	上述のテーマおよび文献資料と関連する先行研究を確認しておくこと。また、各回の授業においては、授業前にテーマに関する専門用語を調べておくことが望ましい。				
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、疑問点や課題を話し合い、教員からもコメントして問題意識を共有する。				
準備学習（予習）	次回の授業範囲を毎回予告するので、参照資料について現代語訳とみずからの解釈を施す。				
準備学習（復習）	授業のポイントと疑問点等を整理する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目					
その他					

科目名称	☆日本文化実習	科目分類	401-330-21
担当教員	下川 雅弘・皆川 義孝	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本実習は、日本文化を調査・研究するための調査などの方法論を学修する。具体的には、鎌倉、東京都、京都、奈良などの寺院・神社の特徴を明らかにし、そこから見えてくる文化的特徴を考察する。この考察を通じて、日本文化の調査方法について実践していく。		
到達目標	日本文化を調査・研究するための方法論を身につける。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 本授業の予定と目的を説明する 2. 仏教文化の知識を学ぶ 3. 寺院の調査方法について 4. 鎌倉の寺院を調べる 5. 鎌倉の神社を調べる 6. 寺院・神社からみる鎌倉の文化的特徴についてまとめる 7. 寺院・神社からみる鎌倉の文化的特徴について発表する 8. 東京の寺院を調べる 9. 東京の神社を調べる 10. 寺院・神社からみる東京の文化的特徴についてまとめる 11. 寺院・神社からみる東京の文化的特徴について発表する 12. 京都の寺院を調べる 13. 京都の神社を調べる 14. 寺院・神社からみる京都の文化的特徴についてまとめる 15. 寺院・神社からみる京都の文化的特徴についてまとめる 16. 奈良の寺院を調べる 17. 奈良の神社を調べる 18. 寺院・神社からみる奈良の文化的特徴についてまとめる 19. 寺院・神社からみる奈良の文化的特徴について発表する 20. 調査する寺院の選定と資料収集 21. 自ら選んだ寺院について分析する 22. 自ら選んだ寺院にみる文化的特徴についてまとめる 23. 自ら選んだ寺院にみる文化的特徴について発表する 24. 調査する神社の選定と資料収集 25. 自ら選んだ神社にみる文化的特徴についてまとめる 26. 自ら選んだ神社にみる文化的特徴について発表する 27. 授業で取り上げた寺院・神社の文化的特徴から日本の宗教文化の特徴について考える 28. 日本の宗教文化の特徴についてまとめる 29. 日本の宗教文化の特徴について発表する 30. 日本文化と寺院・神社について総括する 			
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。		
参考書	鎌倉市、東京都、京都府、奈良県の寺院・神社に関する図書		
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100点満点における）は平常点 50 点、レポート 50 点の配分とする。		
授業開始前学習	事前に配布された資料や紹介された参考書を精読しておく。		
授業内課題のフィードバックの方法	作成したレポートについて、提出した次の授業にて講評し、質問に回答する。		

準備学習（予習）	図書館・寺院資料研究センター・駒沢女子大学博物館学実習館で調査する寺社、博物館等の基礎情報を修得する。				
準備学習（復習）	実習を通じて修得した知識などを整理する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当			△	○	◎
関連科目					
その他	本実習は、2年間の履修となる。東京近郊の寺社・博物館を見学する正課学外活動を2回予定している。				